



■住所/栃木市室町3-14
■tel/0282-22-1865
■営業時間/14:00~22:30
■定休日/水曜日
■入浴料金/大人 400円
 中人(6歳以上12歳未満)150円
 小人(6歳未満) 80円

栃木 玉川の湯(金魚湯)

金魚と薪焚きの湯で癒す



浴槽の壁に埋め込まれた水槽には金魚が泳ぎ(写真①②)、通称「金魚湯」として街の人に愛されている。れんをくぐり、深みのあるあめ色の下駄箱(写真③)に靴を入れると番台が迎えてくれる。番台近くの冷えた飲み物や駄菓子、秤のような体重計や木のベンチに昭和の香りが漂う(写真④)。

「薪の釜から離れないため大釜です」と話す店主の内木さん(写真⑤)。これからの玉川の湯は皆さんにとって落ち着く場所であり続けたい。利用してくれる方に、自信を持って紹介してもらえるところにするために頑張ります」思いを語った。

小山 幸の湯 ペンキ絵で昭和味わう



浴室の壁には、日本にわずかにしかいない銭湯絵師により男湯は「富士山」、女湯は「立川連峰」がダイナミックに描かれている(写真①)。富士山をモチーフにしたのれんをくぐると、目の前に昭和レトロな空間が広がる。脱衣所は(写真②③)、昭和レトロな趣が残り、若者すら懐かしさを感じる空間だ。

地元商店主たちの協力で、数十年前に洗いの鏡を張り替え、その上を洋風のタイル絵が彩る(写真④)。番台に座る操さんの笑顔(写真⑤)が地元の人たちの心をとらえ、多くの人に銭湯の魅力を知ってもらいたい」と店主の星さんは、SNSで発信し、強い使命感で銭湯文化の継承に挑む。



■住所/小山市城山町2-5-21
■tel/0285-25-0356
■営業時間/15:30~22:00
■定休日/金曜日
■入浴料金/大人 450円
 中人(6歳以上12歳未満)200円
 小人(6歳未満)100円



昨今のサウナブームを楽しみたいという人には、栃木県唯一のサウナ付き銭湯として知られる宇都宮市の「宝湯」をオススメする。1993(平成5年)のリニューアルオープン以来、多くの地域住民に愛されている。近年、若者を中心にサウナを楽しみ、サウナがブームになり、週末には昔ながらの銭湯とサウナを求めて県外からも多くの観光客が訪れている。「夫婦で交互に番台に座り、裏方の仕事も多忙なので体力的には大変ですが、お客さんからの温かい言葉が励みになります」と、店主の稲垣佐一さん、茂子さん夫婦。

銭湯といえはペンキ絵。小山市の「幸の湯」の男湯には迫力ある富士山がそびえる。店主の星良則さんは「父は亡くなる1カ月前まで、お客さんとの会話を楽しみ、口癖の「生涯現役」を貫きました」と亡き父をしのぶ。番台を守る母で大女将の操さん共々「これからも長く続けてね」「いいお湯だった」という声を励みにしている。天然ラジウム鉱石を入れたメインの浴槽と漢方の薬湯で、体が芯から温まり湯冷めしにくくなり、肌がなめらかになると評判で、地元の常連客はもちろん、都内などから来る客も増えている。

老いも若きも、ぽっかぽか



とちぎ温ったか銭湯

寒さが身に染みるこの季節、温かいお湯に入ってリラクゼーションしたい。それなら「昭和レトロブーム」の人気スポットとして若い世代にも注目を集めている「銭湯」がオススメ。栃木県内で営業している3カ所の銭湯を味わう旅に出かけてみよう。

創業1889(明治22)年、今年で135年を迎える栃木市の「玉川の湯」。建物は当時の姿を今に残している。薪焚きならではのまろやかなお湯を求め、開店前から常連客が並ぶ。常に薪の量を調節しながら温度管理をするなど手間も時間もかかる。「芯まで温まる」「気持ちいい」という声を励みに焚き続けています。4代目店主の内木春樹さん。2階には屋内スケートボード場を併設しており、スケートボードやSNS世代の若者や観光客など、県外からのお客さんも増えている。

宇都宮 宝湯

からだ整う、サウナと井戸水風呂



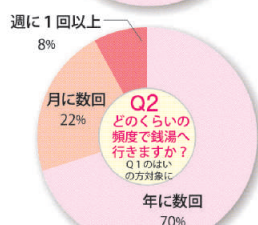
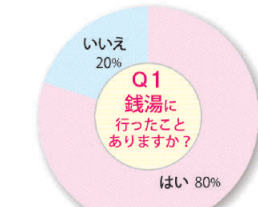
■住所/宇都宮市若草1丁目9-5
■tel/028-624-804
■営業時間/13:00~23:30 ■定休日/毎月10日・20日
■入浴料金/大人460円 中人(6歳以上12歳未満)200円 小人(6歳未満)100円

メインの浴槽(写真①)のほか日替わりで10種類以上のバリエーション豊かな薬湯(写真②)も楽しめる。熱めのサウナ(写真③)の後に、井戸水かけ流しのやわらかな水風呂(写真④)で汗を流し、中庭の休憩スペースで体を整えるのが宝湯を訪れるサウナ愛好家の楽しみ方。お風呂は昌蒲湯ゆず折らぎ風呂など、四季折々の季節風呂も楽しめる。



Q3 銭湯の湯上りに飲みたい飲み物は?

- 1位 コーヒー牛乳
- 2位 牛乳
- 3位 オロナミンC
- 4位 レモン牛乳



どの家庭にもお風呂があるのが当たり前の現在、皆さんが銭湯にどのような思いを抱いているのか緊急アンケートを実施。(2024年1月4~12日会員サイト「とちぼ」で1116人が回答)

回答者の8割は銭湯に行った経験があり、行ったことのない人たちの75%は「行ってみたい」と思っている。7割の人たちが「年に数回」銭湯に行っており、「週に1回以上」という銭湯ファンが1割弱存在する。銭湯で人気の飲み物はダントツで「コーヒー牛乳」。

400件近く寄せられた銭湯の思い出では「アイスを食べた」「帰りにご飯を食べた」「コーヒー牛乳を飲んだ」など飲食関連の他、「子供の頃、両親と行った」「(50代女性)」「祖父の背中が大きかった」「(30代男性)」「友人と入る銭湯が好きでした」「(50代男性)」などのように、家族や友人との交流の思い出がたくさん寄せられた。やっぱり「泳いでいた」「(50代女性ほか)」という思い出もありました。

銭湯アンケート

週 3回くらい通っています。お風呂に入るとポカポカして一日の疲れが取れる気がします。番台のおかみさんの人柄も良く、毎回話すが楽しみです。
◎70代女性

自宅にお風呂があっても、やっぱりここに来てしまいます。体がポカポカして、疲れが吹き飛びます。「久しぶり!」元氣そうねなどと声をかけ合うなど、ここで会う皆さんは家族のような存在です。
◎60代女性

~利用者の声~
銭湯大好き
I love 湯

40 年近く通っています。宇都宮に一軒しかない銭湯なのでこれからも長く残してほしい。サウナの後の水風呂は最高です。入浴は食事と同じ、よい風呂に入ると幸せな気持ちになれます。
◎70代男性

サウナが好きなので、ほぼ毎日通っています。サウナのと水風呂に入ると爽快です。店主と女将さんの人柄が良いのも魅力です。これからも長く続けてもらいたいですね。
◎女性(年代は秘密とのこと)